

日工販ニュースVol.17 No.1



もくじ

新年のご挨拶	日本工作機械販売協会会長 石川 正治	2
年 頭 所 感	経済産業省製造産業局産業機械課長 小宮 義則	4
.....	社団法人日本工作機械工業会会長 大西 匡	6
話 題 の 技 術 「JIMTOF 2004 での新技術 サーモフレンドリーコンセプト / アンチクラッシュシステム」	オークマ(株) 足立 浩充	8
我が社を語る	サンワ産業(株) 田畑 清光	12
リレー随筆 Part 1 「一期一会」	ユアサ商事(株) 坪内 隆芳	13
工作機械と私	日鋼商事(株) 玉井 浩	14
S E 教 育 「合格者」		14
議 事 録 「教育委員会」「東部委員会」「東・中・西部地区講演会と忘年懇親会」 「西部懇親ゴルフ会」		15
甘 口 辛 口 「変えてはいけないこと」	(株)不二 池浦 捷行	21
統 計 資 料 「FA 流通動態調査 1」「工作機械業種別受注額」		22
私 の 読 書 評 「伝記から学ぶ事」	東京金子機械(株) 石井 代二	24
リレー随筆 Part 2 「三つの汗」	(株)山 善 敦賀 和也	25
消 息 ・ 行 事		26
会 員 会 社		28

新年のご挨拶



日本工作機械販売協会
会長 石川 正 治

新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様には清々しい気持ちで、良いお正月をお迎えになられたこととお喜び申し上げます。日頃は日工販の活動、運営にご理解とご協力を賜り誠に有難うございます。お礼申し上げます。

昨年は、私共工作機械業界に関わるものにとりましては、大変恵まれた良い年でありました。年初、9千5百億円程度と予想されました暦年の年間受注額は最終的には1兆2千億円を超えたようです。これはバブル期に1兆4千億円強を記録しました1990年以来最高の数字になります。2002年10月からの月間受注額は昨年11月まで26ヵ月間連続して、対前年同月比プラスと活況裡に推移しております。10数年振りに工作機械業界に訪れた好況と申せましょう。3年程前には見られませんでした明るい、元気で澁刺とした顔が会員の皆様には溢れており、誠に喜ばしく存じます。

昨今の受注が好調な原因は各方面で色々と指摘されておりますが、中国を筆頭とする東南アジア諸国の急速な経済発展に伴う影響、自動車産業の好調、デジタル家電の伸張等が主たるものに上げられると思います。加えまして、ここ暫くの間多くの企業が抑え、見送られてきた設備更新が再開され始めた事が大きいのではないのでしょうか。古い機械では要求される製品が造れない、或いは新しい機械に比べコスト、精度などで太刀打ち出来なくなって来ているように見られます。近年、工作機械はメーカー各社のたゆまぬ努力でユーザーの方々が想像している

以上に大きく進歩しているという面があるのではないのでしょうか。最新鋭機の購入、導入が利益を生み出し更なる設備更新需要に繋がっている現実があるように思います。結果的にユーザーからの短納期要求が一段と強くなっているように感じられます。

世界を見渡しますと局地的な紛争やテロ対策の意見相違などを内蔵しながらも概ね安定した政治情勢が続いてまいりました。経済面でも原油価格の不透明さ、原料価格の高騰、ドル安、元の切り上げ問題など先行きを懸念される点は多々ありますが、声高に通貨危機、金融不安などが取り沙汰されることはなく、表面的には穏やかな一年であったように思われます。日本においても、政治、経済や社会面で咄を決して議論するような事態は発生しませんでした。昨夏の衆議院選挙の結果にも表れたとおり現状の政治に100%満足ではないが、取り敢えずはこの路線を進んで行こうといった考えが多数のようです。内外とも急激な変化を望まないゆったりした環境にあるように見えます。

こうした中、今年の工作機械業界も比較的安定した業況で推移し、年間受注額は1兆円を超えると予想しております。日工販会員各社並びに日工販にとりまして今年は、その役割を十分に発揮するチャンスではないかと考えます。メーカーとユーザーの狭間に埋まり存在感を失くしていくのではなく両者間の利害調整やスムーズなコミュニケーション推進に力を尽くしていくのは勿論ですが、メーカーやユーザーの発展に有用な情報を提供しつつ、日本のもの造りに積極的に参加していきたいと思っております。その過程で、もう少しパワーを備え付け、より魅力ある日工販にしていければと念じております。幸い、昨年行いました会員増強プロジェクトも順調な成果を上げることが出来、多くの方々に入会して頂きました。今年は各委員会、地区、SE教育などの従来からの活動を更に活発化させる一方、日工販のパワー・アップに結びつくような新しい試みにも挑戦していけるよう一層の努力をしていきたいと考えております。協会に対しましてのご理解とご協力を改めましてお願いする次第であります。

最後になりましたが、この一年が会員の皆様にとりまして明るく、素晴らしい年になりますようお願い申し上げます、年頭のご挨拶とさせていただきます。

平成17年 年頭所感



経済産業省 製造産業局
産業機械課長 小宮 義則

平成17年の新春を迎え、謹んでお慶びを申し上げます。

昨年は、台風や集中豪雨による水害、地震等の災害が数多く発生いたしました。まずは、被災された方へ改めてお見舞いを申し上げますとともに、物資の支援や代替機械の優先融通等の御配慮を頂いた方に心よりお礼を申し上げます。

昨年の我が国経済は、企業収益の増加や個人消費の拡大、雇用情勢の改善など民需を中心とした堅実な回復がみられ、機械産業においても、業種により多少の相違はあるものの、輸出の拡大やユーザー業界の堅調な需要等を受け、バブル期以降久々の高収益を記録するなど、回復が続いている状況にあります。

経済産業省といたしましても、機械産業を取り巻く状況の変化に対応し、更なる業界の発展のための施策に取り組んでまいります。まずは、産業人材の育成です。我が国の製造業の競争力を支える製造現場の中核人材の強化が重要であり、皆様の御協力のおかげをもちまして、来年度の税制改正で認められる見通しとなった人材投資促進税制を始めとした施策に取り組んでまいります。また、製造業の、世界に先駆けたイノベーションが持続的・自律的に達成されるよう、実用化を見据えた研究開発プロジェクト等を推進いたします。さらに、製造業のグローバル化が進展するなかで、海外における模倣品・海賊版被害に対応するため



に、昨年7月、製造産業局内に設置した「政府模倣品対策窓口」を中心として、業界の皆様方の海外における活動をサポートさせていただくとともに、技術流出防止対策についても積極的に取り組んでまいります。

通商分野に目を向けますと、昨年は、経済連携協定に関して、日墨EPAが署名され、日比EPAが大筋合意されました。本年は、タイ、マレーシア、韓国及びASEANとの経済連携交渉が進展し、これらの国・地域との一層の貿易の拡大が期待されます。機械産業においても、EPAやWTOの枠組みを積極的に活用して、市場の拡大、不公正貿易の是正、ひいては産業競争力の強化が図られるよう、産業機械課としても取り組んでまいります。

私は、機械産業を担当する課長として、業界の皆様のお意見に耳を傾け、議論を交わしながら、個別業界を巡る具体的な問題解決に取り組んでまいります。皆様の一層の御理解と御支援をお願い申し上げます。

最後になりましたが、本年が皆様にとってよりよき年になることを祈念いたしまして、新年の御挨拶といたします。本年もよろしくお願い申し上げます。

(脚注：EPA = 経済推進協定 WTO = 世界貿易機構)

年 頭 所 感



社団法人日本工作機械工業会
会 長 大 西 匡

平成17年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年の工作機械業界は、5月から1,000億円台の受注が続くなど、近年稀にない好景気に沸きました。これは、自動車産業の設備投資とアジアへの輸出が堅調に推移したこと、さらに、幅広い業種の中小企業が、生産能力の増強や老朽設備の更新に着手したことによるものです。加えて、11月に開催されたJIMTOF 2004の総来場者数は前年比25%増の147,251人、海外来場者数は同70%増の11,416人と共に過去最高を記録し、来場するお客様も従来になく真剣な眼差しで設備投資を検討されておりました。また、技能五輪全国大会上位入賞者による加工実演等三つの企画展示は、モノづくりの楽しさ、喜びを多くの来場者に伝えることができたと思います。

以上のことから、2004年の工作機械受注額は、前年比約4割増の1兆2,000億円強と見込まれます。

本年の日本経済は、調整局面への突入が懸念されておりますが、工作機械需要はマクロ景気の懸念材料とは関係なく拡大の厚みが増しております。すなわち、

グローバル経済下における国際競争力強化のための設備投資、自動車産業などが取り組んでいる世界規模での生産能力増強と環境対応投資、老朽設備の更



新や合理化投資の本格化の3点であります。海外に目を転じますと、アジアでは中国の経済成長が巡航速度に落ち着けば、引き続き好調を維持すると思われれます。欧州景気は回復局面に転じ、米国では、設備投資や個人消費が堅調に推移すると考えます。以上のことから、本年の工作機械受注額も1兆円を上回ると予測いたします。

このように現下受注が好調で、業界は繁忙を極めておりますが、われわれ工作機械メーカーは、品質と納期でお客様へ絶対にご迷惑をかけないという心構えで、気を引き締めて日々の業務に取り組んでおります。特に品質に関しては、どれだけ忙しくなっても、これまで以上に意識を高めフォローを充実し、世界一の工作機械生産国の名に相応しい高品質を常に保たれるよう、会員各位に強くお願いしております。さらには、この好景気に浮かれることなく兜の緒を締め、今後も常に世界を凌駕する技術とサービスで、世界のモノづくりをリードしていく所存です。

本年も関係各位には、ご指導、ご鞭撻とさらなるご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、本年が皆様にとってさらなる飛躍の年になることを祈念致しまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

★ 分かりやすい話題の技術 ★ ★ No.75 ★

JIMTOF 2004 での新技術

「サーモフレンドリーコンセプト」

「アンチクラッシュシステム」



オ - クマ(株) 営業技術部
MC営業技術グループ
副参事
足立 浩 充

JIMTOF2004に出品しました新製品、新技術の中から今回は、大きな反響を頂いている二つの新要素技術「サーモフレンドリーコンセプト」と「アンチクラッシュシステム」についてご紹介致します。

「サーモフレンドリーコンセプト」(熱と仲良く付き合うという発想)

1. 開発の背景

熱変形の要因

工作機械における加工要求精度確保に対して、機械の熱による変形は悪影響となります。

工作機械の熱変形の要因は、次のものが挙げられます。

稼働時の自己発熱：主軸回転、送り軸動作、周辺装置。

機械周囲の温度変化：1日の室温変化、工場出入り口の扉開放による室温の急変。

切削液の温度変化：堆積した切粉の加工熱が切削液に伝わる。

2. 「サーモフレンドリーコンセプト」の考え方

従来、機械の熱変形を抑える為に、メ - カ - は発熱部を冷却するために様々に努力し、ユ - ザ - は工作機械の設置環境の温度変化を少なくしようとしてきました。しかし恒温室の様な設置環境にすることは、大半のユ - ザ - にとって設備費が高価になる場合が多く、一方、工作機械の温度を一定にする構造にも限界がありました。そこでこういった従来の考えとは全く別の発想をし、機械からの熱の発生は避けられないという事実から、設置環境の温度変化による熱変形を抑えるのではなく、そのまま受け入れようという考え方「サーモフレンドリー - コンセプト(熱と仲良く付き合う発想)」を取り入れました。

3. 「サーモフレンドリーコンセプト」を構成する三つの要素技術

機械構成要素の形状、リブ構造、鋳物の肉厚などを工夫して、熱変形を単純化する。

機械のカバ - や周辺装置を効果的に配置することで、機械の温度分布を均一化する。

正確に熱変位を補償する技術を適用する。



の熱変形の単純化構造は、機械主要部分を左右熱対称構造にすることや、コラムを単純なボックス形状にすることで実現しています。(下図1、2)

の機械の温度分布均一化は、コラム後ろのNC制御箱が断熱材の役目をしてしまうので、コラムの前にカバ - を付けることで、機械前後の温度を同じにしています。(下図3)

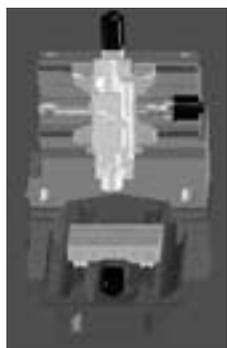


図1 左右熱対称構造



図2 ボックスビルドコラム



図3 機械前後の温度を同じにする熱平衡構造

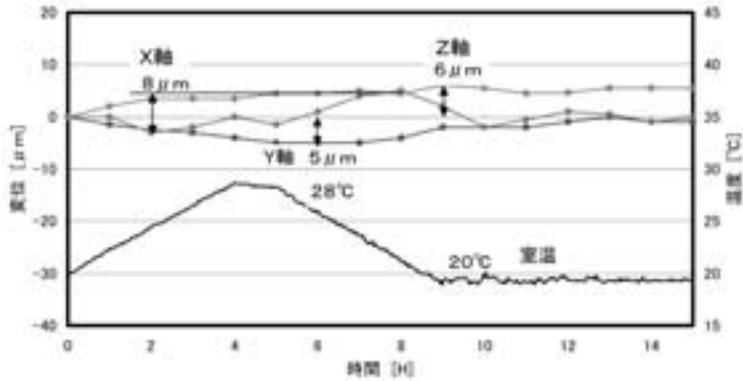
正確に熱変位を補償する技術

主要構造部から温度情報や運転情報を入手して、それらの情報から継続的に主軸や機械構造の熱変位量を推定し、熱変位補償指令を軸動作に与え、正確に補正します。



4. 効果

これら三つの要素技術により、機械周囲の気温が8℃変化(日中の温度変化量に相当)する状況で、当社の立型マシニングセンタMB-46VAにて、8μmの加工精度維持が可能となりました。



「アンチクラッシュシステム」(ぶつからない機械)
次世代NC装置OSP-P200に搭載



1. 開発の背景

初品加工準備の際に操作ミスで、うっかり機械や工具を、ワークやチャック、機械自体に衝突させてしまう事が有りますが、ダメージが大きい場合は修復にお金と時間が掛かってしまいます。特に機械の稼働部が多くなると、注意しているつもりでも機械正面からでは見えにくい稼働部もあります。「操作ミスでも衝突を防ぐ機能が有れば、非常に助かるのだが...」という、お客様の声にお応えするのが、このアンチクラッシュシステムです。

2. 「アンチクラッシュシステム」開発の目的

- 1) あらゆる場面、自動操作でも、手動操作でも、衝突を防止する。
- 2) 機械の構造物同士の衝突防止や、更に工具とワークの衝突も防止する。

これらにより、

- 加工準備、初品加工時間を大幅に削減する。
- 使い易さ、安心を提供する。

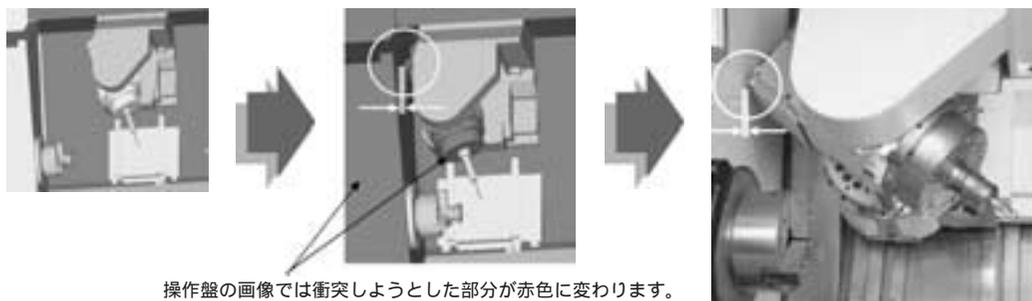
3. ぶつからない機械を実現するための要素技術

予め登録された、機械、チャック、治具、工具等の3次元形状データを、機械動作に合わせてNC装置がチェックし、衝突を未然に防ぎます。治具や加工物の形状は基本形状(チャック、丸棒など)から選択して、寸法を入力して簡単に形状を作成出来ます(モデリング機能)。

- 自動操作の場合はプログラムを先読みし、衝突動作に入る前に止まります。
- 手動操作の場合は、衝突する直前で止まります。

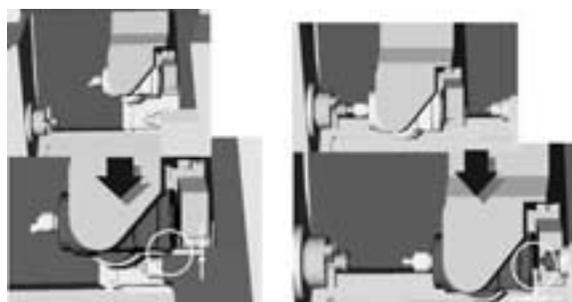
複合加工機 MULTUS B300での衝突防止例 その1

手動操作で回転工具主轴を加工物の方へ移動させた時に、機内カバ - に衝突してしまう場合でも、直前で止まり衝突を未然に防ぎます。



複合加工機 MULTUS B300での衝突防止例 その2

手動操作で回転工具主轴を加工物の方へ移動させた時、工具と加工物に気を取られ、主轴頭の裏側が心押台に衝突してしまう場合でも、直前で止まり衝突を未然に防ぎます。



上下方向の衝突防止

左右方向の衝突防止

4 . 効果

今まで機械のドアを何回も開けたり閉めたりして、稼働部が衝突しないか確認していた手間が不要になり、初品加工時の段取り、モニタ時間が、従来の1/2になりました。

その他に、操作時の安心感が大きくなり、またマシンダウン時間が短くなります。

まとめ

「サーモフレンドリーコンセプト」 「アンチクラッシュシステム」により、

作業への負荷と労力を軽減し、快適な作業環境を提供します。

お客様にさらに付加価値の高い「オンリーワンなモノづくり」を実現して頂きます。



☎ サンワ産業株式会社



代表取締役社長

田 畑 清 光

弊社は、昭和29年4月1日に台東区浅草橋において三輪精機㈱を中核とするニシウミグループの販売拠点として設立され、企業を形成している「人」を常に重視し、「従業員の生活向上なくして企業の繁栄なし」という人間尊重の精神を企業経営の基盤とし、「工業製品を通じて国家社会に貢献する」という企業理念に基づいて今日まで運営してまいりました。

その間、昭和46年に三輪精機㈱の技術開発の結晶によるタレット旋盤自動化装置「タレットマスターオート」が全国において爆発的なヒット商品となり、総販売店だった弊社は飛躍的な成長を遂げることが出来ました。これが昭和51年に工作機械の分野にも進出する大きなきっかけとなり、現在では売上高の50%を占めております。

又、昭和49年より現在に至るまで継続して浅草税務署並びに板橋税務署より優良申告法人として表敬状を戴いております。

さらに、今年の4月1日には、曲折を経ながらも何とかこれを乗り越え、創立50年という節目の年を迎え、新たな一步を踏出すことが出来ました。

これも偏にお取引先皆様方の温かいご支援ご指導の賜と深く感謝しております。

これからも、お客様のニーズをより早く適格に情報をキャッチして、提案営業に徹し「お客様の満足度100%」をモットーに、販売拠点を国内のみならず、今後は東南アジア、中国にも拡大し、尚一層鋭意努力して行く所存であります。

会員皆様方のご支援ご指導の程切にお願い申し上げます。

本 社：東京都板橋区大山東町3-10

Tel：03-3964-9111(代) Fax：03-3962-7924

URL：<http://www2.odn.ne.jp/n-sanwa-sangyo/>

支店・営業所：名古屋、大阪、群馬、千葉、長野

営業品目：工作機械、産業機械、車両用機器、シートシャッター、空・油圧機器等の販売



リレー随筆

Part 1



『一期一会』



ユアサ商事(株)
中部工業機械部
坪内隆芳

私は「一期一会」という言葉が大好きです。人生において、一度きりの出会い…。出会うのも出会わないのも運命だと思つと、神秘的な感じさえします。たかがまだ25歳の男がという言葉ではありませんが、生まれてから今の自分があるのはお会いした様々な方に教えて頂き、また叱咤激励され、支えられてきたからだと感じています。時折、嫌気がさして自暴自棄に陥り「誰の力も借りず、一人で生きてやる!!」と思ったこともありましたが、それは無理な事で、知らない内に人の輪の中にいる自分に気付きました。今までこの「一期一会」という言葉は入試に出てくる熟語という見方しかしていませんでしたが、最近になって、「なんて素敵なお言葉なんだろう」と思うようになりました。ここに私の中で印象に残っている出来事を書きたいと思います。

高校のサッカー部の頃、監督に校内10周を命じられ、8周目を終えた時、「誰も見ていないから10周走った事にしよう」と決め途中で止めたところ、監督から「中途半端なことはするな」と怒られた事があります。その時「何故2周くらいを残し最後まで走らなかったのだろう」と悔いた思い出があります。それ以来、「中途半端な事はしない」と自分の中で一つの教訓として胸にきざんでいます。私の心に残った一番の思い出です。

大学の頃アルバイトで引越をやったことがあります。その時は4人でチームを組み、正社員のドライバー、準社員、私を含むアルバイト2人でした。運搬用トラックの運転席には2人しか乗れなかった為、私たちアルバイトは後部の荷物入れに乗り現場に向かいました。窓が無い為、真っ暗の中で移動しました。そのアルバイトの人が同い年で、私と家庭環境が同じであった為、話しがはずみ意気投合した覚えがあります。ウマが合い仕事もスムーズに終わらせる事ができました。これから友人として付き合いいきたいと思っていた矢先、彼は親の仕事の関係で東京に引越してしまいました。

その時その時の出会いをどれだけ大切にするか。あの時、連絡先を聞いておけば…。後悔先に立たずで、でも逆に私としてはそれも運命なのかなと感じています。日々時が過ぎる中で、「今日はどんな事が起きるのだろう。どのような出会いがあるのだろう」と思うとワクワクするのは、私だけでしょうか。未熟な私ですが出会いの中でその人の良い所、学べべき所をどんどん吸収して自分を大きく成長させていきたいと思っています。早く一人前の社会人になって様々な事にチャレンジしていきたいですし、そのためにももっともっと様々な方と出会いたいと思います。

工作機械と私



日鋼商事(株)
機電部 課長代理
玉井 浩

「工作機械」に携わるようになってから、あまり長くない私ですが、少しずつ工作機械の凄さと素晴らしさを感じるようになりました。

と言うのは、世の中に存在する多くのものは、殆ど工作機械が絡んで造られているからです。このように考えられるようになり、機械を販売する私自身の姿勢に少し変化が出てきました。

工作機械の奥深さには驚かされます。まずはその種類とメーカーの数に圧倒されました。販売する製品を理解し、その特徴をPRすると言う当たり前の行為が、なかなか大変です。入社当時は、機械を見ただけでは、その種類を判別する事すら出来ませんでした。

そんな中、なんとか経験と年数を重ねるうちに随分理解度が上がって来た今日この頃です。

世の中の流れでしょうか、まだまだ経験と知識が充分ではない私ですが弊社の特長を生かし販路の一部を海外に向け中国での活動を増やしています。初めて訪中した時は、現地の製造業の活発さに正直驚き、何故か自分まで元気になったような錯覚を感じました。日本にもこんな時期があったのだろうか、考え深いものがありました。

中国ビジネスも未来永劫続くとは限りませんが、それはどこでも同じです。現状の勢いが鈍化する事はあるでしょうが、現地の状況を見ると、まだまだ元気です。

日本の機械メーカーの現地駐在員が少ない中、自分自身で機械のプレゼンテーションをしなければならぬ状況で苦労はありますが、同時に自分のレベルの向上に役立っている事は確かです。

昨今、国内の販売状況も良くなってきておりますので、国内外の市場でバランスを考えながら、日本の工作機械を販売して行く事に、より一層努力して行きたいと思えます。

また、時代の変化は、売り方にも大きく影響しています。変化に遅れを取らないように、時代時代に合った手法を考えて、今後も取り組んで行きたいと思えます。



日工販SE合格者 第118回発表

今回は12月の合格者2名です。

認定No.	会社名	合格者名
04-14-1624	植田機械(株)	住吉 輝雄
04-14-1625	共友リース(株)	吉村 公一

『更新研修』合格者 第72回発表

今回は12月の合格者3名です。

認定No.	会社名	合格者名
04-9R-1247	(株)兼松KGK	佐伯伊都企
04-9R-1258	サンコー商事(株)	松尾 義孝
04-9R-1206	興銀リース(株)	中浜 栄二

第81回 教育委員会

日 時：平成16年11月29日(月)

12:30 ~ 14:45

場 所：機械工具会館 5階会議室

出席者：植田委員長、委員6名、事務局2名

委員長挨拶：

日工会発表による1~10月の受注統計は1兆円を超え、このペースで行けば今年の累計は1.2兆円を超えそうだ。今年は水害、暑い夏、数多い台風襲来、新潟の地震と天災の多い年だった。景気は順調でオリンピックブームもありテレビ、デジカメ等がよく売れた。現在高止まりしているが円高とオイルの高騰がどう動いて行くかにより今後の景気に影響する。半導体関連、部品加工にどう響くか、一時であればあり難い。時代を読み取って行けば凌げられると思われる。

議 題：

1)16年度SE講座、更新研修実施報告

専務理事より報告。SEの受講生は東京55名、名古屋68名、計123名参加。更新研修は東京22名、名古屋30名、計52名参加。通信教育テキストを11月1日に受講者宛送付。今年度より講座「図面・加工法・切削理論」は株森精機製作所の大岩氏に、講座「生産システムと情報技術・ロボット技術」はファナック(株)の山口氏に交代し、新しい加工技術、システム情報が加わり実際の仕事により役立つと好評であった。

2)基礎講座「工作機械の要素・切削理論・加工物材料」後任講師のこと

前任の伊藤氏より後輩の是田規之氏のご紹介がありお願いすることにした。尚、同氏経歴はS36年東京大学工学部精密工学科卒業、三菱重工業(株)広島工機工場設計部長を経て、現在崇城大学(旧名熊本工業大学)機械工学科教授。

3)機械納入据付け時における安全管理に関する基礎講座のこと

安全管理講座を取入れる必要があるとの前回の提言に基づき、討議の結果、商社が機械、システムを納入する際必要な心構えを内容とする1時間~1時間半の講座を設けることにした。

4)更新研修集合教育での営業実践的講座テーマのこと

「有機EL」をはじめとする薄型表示システムとそれらの製造設備についての講義の採用を検討。

5)その他

通信講座テキストの充実を図るべく、改訂費用を次年度予算に計上することとした。

次回開催：

2月24日(木) 12:30 ~ 15:00

機械工具会館 5階会議室

東部地区委員会

日 時：平成16年12月10日(金)

14:00 ~ 15:00

場 所：八重洲富士屋ホテル2階「ウイステリア」

出席者：尾瀬委員長、植元副委員長、委員2名、事務局1名

議 事：

1)当日開催講演会・忘年会進行について
事務局より忘年会参加予定者が99名、内講演会は80名であり、正会員の参加が少ない旨報告。
講演会・忘年会式次第内容と担当確認。

2)中堅社員研修会2月16日実施について
公認会計士・税理士 石島洋一氏による「営業のための決算書のやさしい見方(仮題)」の講演会を

行い、その後、簡素な懇親会を開催することを決定。尚、会は誰もが参加できるよう社員研修会とすることにした。

3) 次年度における忘年懇親会の取り止め及び代替行事について

前回委員会で次年度からは忘年懇親会を取り止めるとの意見に固まったことを受け、具体案につき検討した結果、多くの会員(正会員・賛助会員)が参加する方向で、メリハリのある講演会と懇親会を11月に開催することにし、次回委員会までに企画案を出し合うことにした。

次回開催予定:

2月16日 仏教伝道センター

東部地区講演会と忘年懇親会

開催日: 平成16年12月10日(金)

会場: 八重洲富士屋ホテル

講演会: 15:30 ~ 16:40

演題: 「あらゆる工程は短縮できる ~ 開発工程分析のプロセステクノロジー」

講師: 株式会社インクス

代表者/山田眞次郎氏(工学博士)

《同社の事業内容》

- ・ 3次元CADによる委託設計、教育、ソリッドモデリング委託業務
- ・ 光造形による3次元開発試作モデルの製作
- ・ 3次元データを用いた金型の設計、製作
- ・ 高速製品開発工程へのコンサルティング

出席者: 71名

地区委員である(株)トーマンテクノソリューションズ 若林常務より山田講師の紹介があり、講演が行われた。

「あらゆる工程は短縮できる ~ 開発工程分析のプロセステクノロジー」を演題として、ネット



ワーク社会の中でのIT(情報)、MT(もの作り)とPT(プロセステクノロジー)の融合および産業界の開発工程分析の意義について、豊富な資料と実例を挙げて講演された。

過去のマスプロ生産から展開の早い多種少量の付加価値商品に対応するには、如何に早く金型を製作し、付加価値生産へ結び付けるかが生産者の悩みである今、同社の思想、方針は時代の要求にマッチしていると感じました。廉価な賃金と多量の労働人口を求めて海外へグローバル展開することは経済原理上で必要であるが、世界に冠たる日本の技術を残し、日本の製造業の更なる発展の為に有益な提言であったと言えます。又、日本に欠けつつある社員教育と育成の問題を説かれ、海外流出する日本の技術を憂う真摯な講演に出席者は感銘を受けました。

同氏の講演終了後、若干の質疑が行われたあと若林委員より謝辞が述べられ、講演会を閉会した。

忘年懇親会

時間: 17:00 ~ 18:30

会場: 同ホテル「櫻の間」

出席者: 87名

講演会に引き続き、会員及び報道関係者87名が参加し、大前地区委員の司会により忘年懇親会が開催された。尾瀬地区委員長の開会挨拶及び今年度当地区の活動報告のあと、新会員6社(サンワ産業(株)、(株)NaITQ、エヌティーツール(株)、東洋精機工業(株)、三菱マテリアルツールズ(株)、メルダスエンジニアリング(株))が紹介され、石川会長の乾杯が行われ、参加者一同歓談が繰り広げられた。定刻になり来る年会員の益々の繁栄を祈念して植元地区副委員長の一本締めで散会した。

中部地区講演会と忘年懇親会

日 時：平成16年12月3日(金)
 場 所：名古屋東急ホテル
 講演会：「パロックの間」、忘年懇親会：「錦の間」
 参加者：正会員51名、賛助会員27名、
 リース会員11名、招待報道9名
 総計98名

加藤地区委員の司会のもと、井内地区委員長の開会挨拶及び講師であるトヨタ自動車株式会社・BR-ITS世界会議推進室・担当部長 野口好一氏の紹介があり、「ITSの現状と今後の動向」について同氏よりご講演いただきました。

先ずITS(Intelligent Transport System)とは、「最先端の情報通信技術を用いて人と道路と車両とを情報でネットワークすることにより、交通事故、渋滞などといった道路交通問題の解決を目的に構築する新しい交通システム」であるから始まり、ナビゲーションと最先端の情報通信技術を活用したテレマティクスの充実などを通し、物流・人流を効率よく運行する新交通システムを構築し、安全で・快適な・環境にやさしい人類の移動手段を目標としている等、大変判り易い説明でした。

また、10月に開催された「ITS世界会議 愛知・名古屋2004」の一部をビデオで紹介いただき、ITSに対するマスコミ・市民の認知度が画期的に向上していること、2005年3月に開催される愛・地球博(愛知万博)でのフレキシブルで経済性に優れた新しい交通システム=IMTS(Intelligent Multimode Transit System)の取り組みをご紹介いただきました。IMTSのコンセプトは「軌道系交通システムとバスシステムを融合しデュアルモード走行が可能な中距離交通システム」とのことでした。

通信技術・検知技術・制御技術などでのビジネス展開を視野に入れる事ができた有意義な講演会であったと考えます。

その後、「錦の間」に場所を移し下野委員の司会

のもとで忘年懇親会が開催されました。井内委員長の開会挨拶で本年度の日工販中部地区活動報告があり、石川会長の挨拶に続き、ご来賓の大隈豊和機械(株)外山社長のご発声で乾杯を行い、和やかな雰囲気の中懇談が繰り広げられました。お二方のご挨拶のなかで2004年の日工会受注総額が1兆2千億円を超える大変明るい見通しであり、特に中部地区は暫く設備投資が続く環境である事など明るい話題と出席者の皆さんの笑顔が一杯でありました。本年の景気と同様大変な盛り上がりで瞬く間に時間が過ぎ萩原副委員長の一本締めで本年の忘年懇親会は滞りなく終了致しました。

西部地区講演会と忘年懇親会

開催日：平成16年12月2日
 15:00～18:30
 会 場：大阪弥生会館
 講演会：15:00～16:45
 演 題：『21世紀型モノづくりの現状と将来展望』
 講 師：日刊工業新聞 大阪支社
 編集局長 八田 邦夫 氏
 出席者：92名

演題要旨

この5～6年大変大きな変化がありましたが、今は何が起きてても驚かなくなった。我々記者が普段活躍するフィールドに記者クラブがあり、一般紙は政治、国会クラブ、警察庁クラブ等、数百の記者クラブで無数の発表があり、その情報を記事にしているのがほとんどである。それに引き換え、私どもの新聞は70%以上が独自取材による記事で新聞を作っている。大阪の機械業界は電子会館に記者クラブがあり、そこから多くのニュースが発信されている。一番多いのは電気業界で、松下電器、シャープ、三洋電機の3社とトヨタ、ダイハツの自動車関係です。工作機械業界は新製品の発表はほとんどなく地

道な業界だが、一方、電気業界は毎日新製品を発表しており、変化が激しい業界である事を表している。

『企業の社会責任重視』

CSR(Corporate Social Responsibility)

日本企業はこれまでも社会に対してさまざまな貢献を通して社会的責任を果たしてきた。例えば、製品やサービスの提供、雇用の創出、税金の納付、メセナ活動などが挙げられる。しかし、企業の社会的責任の定義や範囲は時代とともに移り変わり、近年は従来とは違った角度から企業の社会的責任が議論されている。その背景には企業と何らかの利害関係を有する顧客、株主、従業員、取引先、地域住民、求職者、投資家、金融機関、政府など実に多くの主体が含まれる。企業にとって、これらとの関係をこれまで以上に大切にし、具体的かつ実効性のある配慮行動を取ることの重要性が増している。

今日、UFJ副頭取逮捕の記事が出たが、古くは雪印問題もあった。関西電力は8月に11人の死傷者を出す大事故があったが6月に3,500件の検査報告の虚偽レポートが発覚し、そのうち手抜き検査、データの改竄など悪質なものは10数件あるとのことで、その瞬間私は危ないと感じた。関西電力のCSRが壊れていっていると思い、全記者に関電をもっと取材しろと指示した。30数年の記者の感で、何かが起きると公言したところ、あのような大事故が発生してしまった。社長は大変ご苦労なされて東奔西走されておられたが、秋山会長は何ら行動を起こされない。秋山会長にはなかなか会うことができなかつたが、当社の記者が夜討ち朝駆けでやっと会うことができた。会長の第一声が「私に辞めると言う声が聞こえてこない。私は会長として取締役会のジャッジメントをしており、会社の執行は全て社長に任せてある。」と発言された。大関電の会長が責任感の無い発言をされたことは誠に残念である。以前と違って、今はトップにいる人はこれらの責任から逃れることは出来ない。何かあった時、中々責任を取りにくい立場の人達ばかりだと思うが、社会性にのっとった形で発言

して欲しいものである。

『環境問題』

京都議定書はロシアが批准し、先進国の55%以上が加盟となり、来年の2月16日に発効する事になった。

松下電器では環境対応又はソリューションがなければ新製品として認めないと社内で決めており、会社上げて環境製品に取り組んでいる。1997年12月のCOP3に出ていたが、気候変動枠組条約に180カ国以上が加盟している。当時日本には環境NGOは10~15団体程だったが今は1万社程に増えている。

CO²の削減は90年の排出量に対して、アメリカ7%(加盟していない)、欧州8%、日本は省エネ国家のトップランナーであり省エネ実績から3%でよかったが、結局6%で押し切られた。日本政府は如何して6%分を減らそうとしているのか。省エネ技術ではたったの0.5%しか減らせない、森林、緑を増やす事によって4%減らす、排出権取引で1.6%減らそうと考えている。企業の排出権を取り決め、企業努力で余った権利は売ることが出来る。取り決め以上排出する企業は余った企業から買わなければならない。英国では既に排出権取引と言うメカニズムが始まっている。その他に2つのメカニズムが有る。先進国が発展途上国に対して技術的なアドバイスによって得た排出減成果の何パーセントかを取り分として与えられる。(クリーン開発メカニズム)。先進国同志で削減に取り組み、その共同実施成果を分け合うメカニズム。この三点セットで取り引きの本番を迎える。三井物産はインドでフロンの回収。豊田通商はブラジルで鉄鋼の燃料転換、東京電力は排出権取引の承認を受けた。

新技術の台頭 『超電導』

住友電気工業(株)が液体窒素を使用した超伝導現象を実用化に。数キロごとのステーションから液体窒素を流して電線を極低温(-200)に冷やすことにより電気抵抗が無くなり、ビックリする程電流がよく流れる。今年に入って東京電力が購入を決め、韓国、アメリカにも供給が決った。アメリカの電線は日本に比べて古く切り替

え時期に来ているので、今後大量に超電導技術が使われる可能性が出てきた。日本企業が超電導技術を先行的に開発した。この超電導技術がスーパーコンピュータとかリニアモーターカーの磁石等にも活用されることにより世の中がガラリと変わることになる。

『ナノテク(10億分の1^{ナノ})』

関西はナノテク仕掛けの発祥地である。2年前、関西ナノテクノロジー推進協議会が発足し会員は130社程。

全国規模では東京にナノテクノロジービジネス推進協議会も生れ330社程。自民党の中にもナノテクノロジー推進議員連盟と言う組織もあり、国を挙げてナノテクと取り組んでいる。何故ナノテク時代に入る事が出来たかと言うと、測定、検査が出来ようになった顕微鏡の進歩が大きい。半導体の線幅が70~90ナノになると集積度が全く変わる。まだ製品になっていないが、オリンパスがカプセル状の胃カメラの開発をしており、薬のように飲んで胃の中を写す事ができ、ピンポイントで癌細胞の所へ運び、癌の治療に役立たせる事が出来るなど、今後、ナノ技術が医療の世界を変えることが期待される。化学プラントは大きな実験プラントが必要であったが、ナノテクのお陰で、小さなガラスの切片で実験化学プラントが出来ようになり、経費と時間の削減が出来た様になった。東大阪のクラスターテクノロジーが大阪産業大学の田中教授との協同開発で金型の表面をインクジェット方式で微細加工をし、どんな小さな製品でも作れるナノ金型ができた。ナノ技術開発のライバルはアメリカで『NNY』と言う国家プロジェクトをつくり、年間1,000億円以上の予算で推進しており、日本も同じ位の予算で推進している。これを仕掛けたのはクリントン政権時代で、モノづくりで負け、輸出で負けたアメリカは、悔しくて情報ハイウェイ、金融工学で勝とうと戦略を立てたが、やはりモノづくりが大切と言うことで、ナノテクプロジェクトを作った。しかし、現在のブッシュ政権はモノづくりに関心が無く、テロ対策や戦争に向いており、この4年間は日本に

とってチャンスと思っている。

『知財、著作権の流れ』

日米の無形資産の比率を見ると、日本38.7%、アメリカ69%で、アメリカはソフトと著作権と技術料で食える国になりつつある。究極的に日本はモノをつくり、なおかつ技術、知財で勝負して欲しい。幸にも今年から来年にかけてISOの会長に日本人になる。今までは欧米人が担当していたが、国際会議はチェアマンの意向が大変反映されるので、日本人がチェアマンになる意義は大きい。今、CSRについてのISOのルール作りが進行中である。責任は重大であるが優位に運べるのではと思っている(ISOに146カ国入っている)。大阪工業大学が知財のプロを養成する知財大学院を来年から発足する。

『グローバル化と国内回帰』

シャープは工場を完全に国内回帰させた。三重県は100億円拠出し、シャープの三重工場周辺に同社関連企業が60社も集まって来た。国内回帰のモデル工場である。最先端のモノづくりは国内でしか出来ないとシャープの経営者は言い切っている。海外に移転するのは成熟した古い技術だけで、開発は日本です。これはシャープだけに限らず、名のある企業の殆どが意識転換してきた。今までのように何でもかんでも海外に行くことはなくなった。松下電器も尼崎にプラズマテレビの工場を建設。2003年6月に建物の投資額の流れが逆転し、国内建物建設比率が上昇に転じてきた。関西には有利な時代が来た。今まで素材産業は不況業種で悪玉のように言われてきたが、最近素材メーカーの経営者は笑顔が絶えない。

『金融問題と金融工学』

来年からペイオフが全面解禁になるのでその対策をしておく必要がある。決済預金は例外であり、銀行関係は決済預金の比重を上げてゆく。米国は金融工学で強くなった。日本は金融が弱く、金融プログラムの中で再編成とか、統合をしてしのいできたが殆どが金融工学で負けてしまった。先物取引など日本は弱くセンスが無い。例えばコロニーと言う投資会社がダイエー球団を今

年の春に僅か600億円で買収し、1年もしないのにヤフーに1,000億円以上で売るテクニックを持っている。その他興行権150億円と球場使用料を20年掛けて1,000億円程支払う。日本人にはこのようなテクニックはない。アメリカは『金融工学』と言う学問が進んでいるが、日本にはせいぜい一橋大学ぐらいで他の大学ではやっていない。それと『競争学』と言う学問もある。クリントン時代『競争優位論』を全米に広げていった。日本の何が強いかわ工作機械の何が強いのか、ベアリングの何処が強いのか、マクロでなくミクロ的に分析し、大統領に答申し、戦略的に競争するのがアメリカ国家である。アメリカは小中学生に投資学を教えている。日本でも最近では巻き返しに出ているが、日本人は農耕民族で遺伝子的に出来ないと思う。しかし、日本にはナノテクを初めとする最先端技術力があり、生産財分野や鉄鋼、化学素材と言った川上産業の領域で高級なものは中国では出来ない。大阪大学元総長の熊谷先生は『材料を制する者は経済を制する』と言われており、日本にはその強さが有り、関西に多くの企業があり、もっと『自信を持って欲しい』と強調したい。

忘年懇親会

時 間：17:00～18:30

会 場：同館「六甲の間」

出席者：97名

講演終了後、会場を「六甲の間」に移し横幕委員の司会のもとで忘年懇親会が開催された。赤澤委員長より「昨年とは様変わり出席者の表情は明るい。日工会発表の本年受注総額は1兆2,000億以上を超えそうである。まさに今年は久しぶりに美酒に酔える。来年も美酒に酔えるよう、がんばろう。」との挨拶があり、続いて石川会長より「本年は関西に力強さが感じられた。官から民の時代であり、民の力、独立心は関西の方々のDNAであると信じている。日工販もこれから更に力を付けていきたいと思っているので、皆さんのお力添えをお願いしたい。」旨の挨拶があった。次いで、ご来賓の近畿経済産業局製造産業課長池上博之氏より祝辞を賜り、横幕委員より新規入会7社の発表及び新会員出席者代表4名が紹介された。続いて大阪機工(株)土井社長の発声で一同乾杯し、懇談に入った。定刻になり端副委員長の中締めで散会した。

西部地区懇親ゴルフ

日 時：平成16年11月30日(火)

場 所：兵庫県三木市

オリムピックゴルフ倶楽部

参加者：正会員8名、メーカー5名、リース3名、
総計16名

JIMTOFも終わり、仕事が一区切りしほっと一息の晩秋の中、晴天に恵まれ参加者は元気いっぱい、好プレーが繰り広げられた。

ゴルフ終了後懇親会を行い各社の近況報告と会員相互の情報交換もなされ有意義な時を過ごし散会しました。

競技は恒例によりWペリア方式を採用し上位入賞者は下記の通りでした。

RANK	氏 名	会 社 名	OUT	IN	GROSS	H CP	NET
優 勝	児 玉 素 一	三 菱 電 機 (株)	40	43	83	12.0	71.0
準優勝	藤 村 博	大 阪 機 工 (株)	54	46	100	27.6	72.4
3 位	植 田 米 昭	植 田 機 械 (株)	55	49	104	31.2	72.8

「変えてはいけないこと」



(株)不二
代表取締役社長
池浦捷行

自動車業界の旺盛な設備投資に支えられて、工作機械業界は様変わりの活況を呈しております。ごく最近まで、まさにデフレ状態が続く平成不況で、超優良企業も含めた大リストラチャリングが容赦なく断行されてきました。一方で金融不況とも言われる局面では、国際会計基準というよりは米国のデファクトスタンダードに引きずられた我が国の金融当局が荒海で難破しかけた10数余年でもありました。グローバル化の波は自動車業界を筆頭に、益々拡大しそうです。関連するサプライヤーとしての中小企業もその例外ではありません。この自力回復とも言われる景況を、さしたる経済政策をしてこなかった「小泉総理のお陰」と皮肉るエコノミストもいます。辛口の新年のご挨拶ですが、この国の将来としてのグランドデザインであるとか、国益を考えたリーダーシップが望まれます。

昨年の2月浜松で第8回東海ポリテックビジョンが開催されました。そこで「ものづくりの競争力」と題しましてデンソー会長の岡部弘氏の記念講演がありました。素晴らしい内容で大いに感動しました。要約しますと本意が変わってしまいそうですが「この長引く不況の中で、失われなかったものがたくさんある。自信とか夢を失ってはダメです。そして技術立国日本はものづくりで勝負すべき」等々、技能五輪に掛けるデンソーのイズムを聴かせて頂きました。大企業のリストラを評して若者が希望を失うアメリカンスタイルを懸念されて、変革のやり方を間違えているのではないが「変えるべきこと、変えてはいけないことを混同している。日本企業のアイデンティティとも言えるべき、労使協調、年功序列、終身雇用の3つは変えてはいけないことです。変えるべきことは例えば、ITの活用で事務部門の合理化をすることで<強み>に変えて経営することです」。換言すれば、企業が守っていかなければならない考え方は人を大切に、長期に雇用し、人を育てていくことです。(株)デンソーの神髄に触れたように思いました。

一昨年の日工販ニュース巻頭言(2003.3)「日本人としての誇り～アイデンティティ」をお読み頂いた方もいると思いますが、自虐的な日本人と思える発言が目立ちます。どうしてか日本の有識者は日本はだめだとおっしゃる。政治家の多くは改革すべきだという。まさに自分が変わらなければダメなのかも知れませんが、特にマスコミとか、評論家の皆さんが極端すぎる嫌いがあります。官主導の政治、発展途上国に限らず蔓延する汚職、戦後の自由をはき違えた民主教育、お上崇拜の依頼心、制度疲労を起こした各種年金・健康保険等、まさに改革すべきことはたくさんあります。でも、我が祖国「日本」をもっと褒めようではありませんか。少子高齢化、年金問題などは先進諸国では当たり前現象です。豊かさの実感がない等と贅沢を言っただけではいけません。奢りがあつたり、謙虚さを失わない限り立派な国でしょう。平和ぼけした日本の次代を担う青年に「誇り」と「希望」を抱いて貰う為にも、「ものづくり日本」に貢献する我が工作機械業界にいささかでも関わられる自分は「幸せ者」と思う次第です。

統計資料

工作機械・F A 流通動態調査 1

統計1

単位百万円

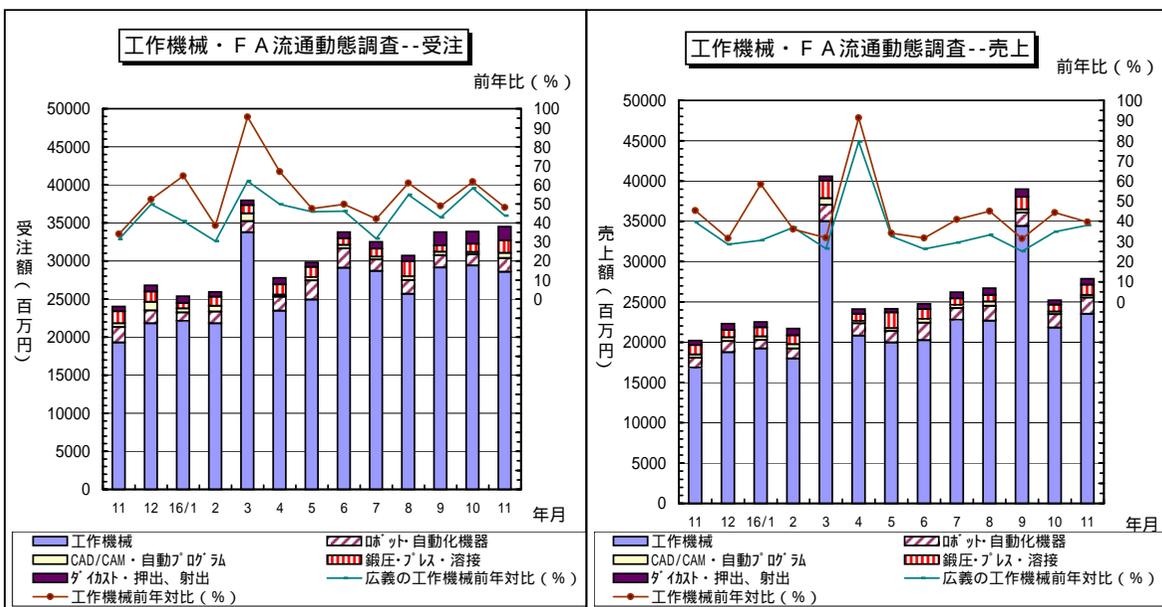
34社合計		受 注				売 上				
調査月次	16/11	前月比	前年比	16/1-16/11	前年比	16/11	前月比	前年比	16/1-16/11	前年比
広義の 工作機械	28,559	-2.8%	48.0%	296,553	56.1%	23,492	7.7%	39.7%	258,343	41.2%
ロボット・自動化機器	1,828	24.6%	-9.5%	19,365	16.9%	2,033	23.4%	60.0%	18,110	17.1%
CAD/CAM・自動プログラム	675	125.0%	38.4%	5,683	16.5%	323	-3.5%	-15.3%	4,831	-8.1%
鍛圧・プレス・溶接	1,640	48.7%	3.9%	13,210	-11.1%	1,291	53.1%	10.5%	13,843	-1.0%
ダイカスト・押出・射出	1,823	14.2%	188.9%	11,323	4.4%	748	34.1%	35.8%	7,668	-16.1%
小計	34,524	2.0%	43.8%	346,134	46.0%	27,887	10.7%	38.1%	302,796	33.5%
工作機械以外の扱い商品	11,993	6.5%	-2.2%	121,964	11.6%	10,082	3.9%	-6.7%	114,598	2.5%
合計	46,518	3.1%	28.3%	470,499	34.6%	37,969	8.8%	22.2%	418,628	22.8%
従業員数	1,239	0.1%	-1.4%							

統計2

単位百万円

32社合計		受 注				売 上				
調査月次	16/11	前月比	前年比	16/1-16/11	前年比	16/11	前月比	前年比	16/1-16/11	前年比
直販 (内リース)	18,581	-10.5%	5.4%	221,187	19.4%	20,053	23.8%	41.1%	205,631	22.4%
卸	1,754	-8.8%	26.0%	19,153	27.9%	1,728	14.4%	52.7%	18,377	28.4%
卸	8,045	1.9%	24.4%	95,127	62.0%	7,532	1.1%	44.6%	86,910	49.8%
輸入	458	-45.2%	1045.0%	4,336	148.6%	121	168.9%	-67.8%	2,011	-39.7%
輸出 (内トランスプラント)	5,292	29.7%	103.4%	41,479	42.2%	2,756	9.5%	42.4%	31,204	13.8%
輸出 (内トランスプラント)	103	243.3%	-	601	27.9%	14	55.6%	600.0%	367	14.7%
従業員数	959	0.3%	-4.1%							

注：本調査は会員66社中統計1に関しては34社、統計2に関しては32社の回答を得て集計したものである。
折れ線グラフは工作機械及び広義の工作機械の前年比である。
参考までに今月のデータ提供会社総数は39社である。



工作機械業種別受注額(2004年11月)

(単位：百万円、%)

需要業種	期間	2003年 累計	前年比	2004年 4~6月 累計	2004年 7~9月 累計	前期比	前年 同期比	2004年 1~11月 累計	前年 同期比	11月分	前月比	前年 同月比
機械製造業	1. 鉄鋼・非鉄金属	5,557	151.0	2,408	2,011	83.5	104.6	7,791	150.6	728	103.0	103.9
	2. 金属製品	15,209	156.3	6,089	5,431	89.2	152.2	20,081	145.0	1,437	75.8	82.6
	3. 一般機械 (内金型)	160,512	133.5	71,892	66,551	92.6	158.3	242,010	166.5	24,017	109.5	157.8
	4. 電気機械	40,724	126.0	17,529	17,576	100.3	165.2	59,834	161.2	5,618	112.2	142.9
	5. 自動車 (内自動車部品)	30,483	135.1	13,717	14,451	105.4	191.5	46,464	170.1	4,117	125.9	139.8
	6. 造船・輸送用機械	158,988	112.4	50,390	58,671	116.4	161.8	203,925	140.3	24,249	95.2	168.2
	7. 精密機械	76,975	114.7	22,776	27,407	120.3	147.3	92,082	130.9	11,653	118.0	180.4
	3~7. 小計	12,074	84.5	4,764	5,106	107.2	141.8	14,732	131.4	1,608	346.6	193.5
	8. その他製造業	24,176	146.9	10,012	6,998	69.9	106.3	29,703	135.9	2,380	125.8	118.6
	9. 官公需・学校	386,233	122.6	150,775	151,777	100.7	158.1	536,834	152.9	56,371	106.3	159.2
	10. その他需要部門	24,507	172.6	10,346	8,656	83.7	138.3	34,803	158.1	3,559	128.8	154.1
	11. 商社・代理店	1,873	88.1	227	365	160.8	102.5	1,486	85.5	110	111.1	148.6
1~11. 内需合計	1,644	269.5	963	429	44.5	115.3	2,763	188.2	182	80.2	70.5	
12. 外需	6,564	131.6	2,279	2,048	89.9	126.1	7,619	129.6	503	71.8	70.3	
1~12. 受注累計 (内NC機)	441,587	126.1	173,087	170,717	98.6	155.0	611,377	152.4	62,890	105.8	152.6	
	409,514	125.8	137,180	148,880	108.5	147.2	508,081	136.4	50,442	104.5	143.5	
	851,101	125.9	310,267	319,597	103.0	151.3	1,119,458	144.7	113,332	105.2	148.4	
	807,208	126.4	295,604	303,842	102.8	152.4	1,064,790	145.0	108,979	105.0	151.3	
販売額	760,462	116.9	211,455	262,598	124.2	125.8	867,521	126.2	84,058	107.8	141.7	
(内NC機)	723,101	117.1	198,714	249,991	125.8	126.0	822,063	125.9	80,921	108.5	143.9	
受注残高	361,158	117.1	471,351	515,307	109.3	149.6	561,205	150.7	561,205	104.8	150.7	
(内NC機)	327,913	122.3	436,641	478,112	109.5	158.8	521,708	159.0	521,708	104.9	159.0	

(社)日本工作機械工業会

伝記から学ぶ事



東京金子機械(株)
営業第一グループ
石井代二

私の手元に、上司から「私の読書評」を書くようにとの依頼文が回ってきたときには本当に困りました。なぜなら、最近特に感銘を受けたというような本が無く、書くべきテーマを限られた知恵から捻出するのにも困ったからです。

ベストセラーになっている、養老孟司の「パカの壁」や、相田みつおの「育てたように子は育つ」などはご存知の方も多と思われるので、あらためてこの場で語るまでもないですし、どうしようか迷いに迷って行き着いたのが伝記でした。

こじつけて薦めるまでの本ではありませんが、ちくま新書から出ている「野口英世の生き方」という本です。

なぜこのような本を買う事になったかと申しますと、身近な所では新千円札にも登場しましたし、本の帯に「偉大なる変人に学ぶ」などと仰々しい見出しがついていて、私が思っている野口英世の人物像からはかけ離れた見出しであり、200頁ほどで暇つぶしには丁度良いと判断して何となく購入した本でした。

内容はといいますと伝記には変わりはないのですが、いままで語られてないような裏話まで書いてあるので自然と本の中に引き込まれてしまいました。例えば好きな女性にプレゼントをしたのが頭蓋骨の標本だったとか、また渡米の為に頭を下げて借りたお金を一晩で酒に殆ど使ってしまったことなどですが、こんなエピソードも含めて200頁はあっという間に読み切ってしまいました。

しかしこの本で学んだ事は私の知らない英世の放蕩ぶりや借金癖などの偏った人間性だけではありませんでした。それよりも「執念」に近い「努力」の方が印象に残りました。

会津の片田舎に生まれ、手にハンディキャップを負いながらも持ち前の頑張りや医者になり、渡米してロックフェラー医学研究所の正所員に上り詰め、ノーベル賞候補にもなった。ただこれだけの英世に対する知識ならば頭の構造が違うとかで済まされてしまいそうなおところではありますが、その過程にある様々な挫折や苦悩など凄まじい努力で乗り越えて行く生き方を見て忘れていた何かを思い出させてくれる本でした。

最近では題名やベストセラーになったという理由で本を買いがちになっていましたが、伝記から改めて学ぶ事もあると再認識させられた一冊でした、興味有る方は是非読んでみてください。



『三つの汗』



榎山 善
大阪本社機械部
敦賀 和也

私は、人間には三種類の「汗」があると思います。『体からかく汗』・『頭からかく汗』・『心からかく汗』。そのひとつでも欠けると人としてのバランスを欠き、人間的な成長がなされなくなると思います。ですから、日々私はこの「三つの汗」を平等にかくよう心掛けております。

まず、『体からかく汗』ですが、これは言わずと知れた運動による汗です。私は平日の仕事のストレス等を土・日曜にランニングやサッカーをすることによって発散しています。学生時代はずっと運動をしていたのですが、社会人1年目、2年目は忙しいことを言い訳に全く運動をしていませんでした。それが祟ってか、風邪などで体調を崩しやすくなりましたし、仕事から帰ってきてモイライラしっぱなしでした。3年目に入り、再び学生時代取り組んできたサッカーを、チームに入って再開することによって体調も元にもどってきました。「さあ、明日の仕事も頑張るぞ」という前向きな気持が持てるようになりました。

次に『頭からかく汗』ですが、これは頭を働かせてかく汗です。仕事中でも昔はただ日常業務の忙しさに流されて、ただ単に仕事を「こなす」だけでしたが、このままではいけないと自覚し、ひとつひとつの仕事を考えながら取り組んでいくと、あらゆる面で少々視野が広がったような気がします。また、元々私は読むことが好きなので、暇な折りには小説、新聞、教訓本、最近ではモノ作りの本の活字を、色々想像を膨らませながら目を通すようにしています。

最後に『心からかく汗』。これが今の私にとって最も欠落していることであり、これから先、生きていく上で一番大事にしたいことであります。この汗の実体は何かというと、他人に対して気を配る事によってかく汗です。このような汗は仕事は勿論、生活をする上でも他人とのコミュニケーションをとる上で必ず付きまってくるものであり、私のように営業での成功を志す人間にとってはその流し方のセンスすら問われるものです。また、この汗は他の汗を伴って流れることが多いと思います。例えば、お客様から信用・信頼されるためには自分自身がどう動けば良いのかを熟考しなければならず、ひとたび考えがまとまったらすぐに行動に移せる実行力が必要になります。しかし、その前にお客様が自分に対して何を考え、何を求め、何に対して評価しているのかを感じ取らなければなりません。心の汗は他の二種類の汗を掌る汗といったところでしょうか。

生まれてから今まで振り返ってみると、何度も心の汗をかく機会がありました。しかし、その度に汗

をかく事から逃げてきたり、汗を流したとしても中途半端にしか流さなかった気がします。ですから、正直にいいますと現在、自然に汗をかく術を知らなくて困っているのが実情です。仕事をして成功するか否かは早いうち、若いうちにこの汗を自然にかけられるようになるかどうかで決まると言っても言い過ぎではないと思います。

これからの長い社会人人生をより充実したものにするために私は、常に考え・常に行動し・常に周囲に気を配れるような人間になれるよう日々精進していきます。

会員・業界消息

- 新入会員 東部正会員 (株)国興 取締役社長 中路治久
〒392-8505 長野県諏訪市中洲4600
TEL.0266-52-2457 FAX.0266-58-2564
窓口担当者 営業推進本部営業企画部部長 久保田司郎
- 中部正会員 岡谷機販(株) 取締役社長 谷 英夫
〒454-0823 愛知県名古屋市中川区富船町4-1
TEL.052-351-7325 FAX.052-363-4130
窓口担当者 取締役社長 谷 英夫
- 西部正会員 関西機械(株) 取締役社長 森本真澄
〒661-0014 兵庫県尼崎市上ノ島町3-14-19
TEL.06-6421-1166 FAX.06-6421-7650
窓口担当者 営業部長 森本一成
- 賛助会員
メーカー オーエスジー(株) 取締役社長 大沢輝秀
〒442-8543 愛知県豊川市本野ヶ原3-22
TEL.0533-82-1111 FAX.0533-82-1131
窓口担当者 企画部長 小澤俊博
- 賛助会員
メーカー (株)北川鉄工所 取締役社長 北川祐治
〒726-8610 広島県府中市元町77-1
TEL.0847-40-0544 FAX.0847-45-4570
窓口担当者 工機事業部長 北川日出夫
- 賛助会員
メーカー 京セラ(株) 取締役社長 西口泰夫
〒612-8501 京都府京都市伏見区竹田鳥羽殿町6
TEL.075-604-3471 FAX.075-604-3472
窓口担当者 機械工具統括事業部マーケティング部副責任者 日高 正
- 賛助会員
メーカー 住友電工ハードメタル(株) 取締役社長 鴻野雄一郎
〒664-0016 兵庫県伊丹市昆陽北1-1-1
TEL.072-772-4531 FAX.072-772-4595
窓口担当者 主幹 甲斐利明
- 賛助会員
メーカー 津田駒工業(株) 取締役社長 菱沼捷二
〒921-8650 石川県金沢市野町5-18-18
TEL.076-242-1111 FAX.076-243-0671
窓口担当者 取締役工機部長 村 弘行
- 賛助会員
メーカー (株)東京精密 取締役社長 大坪英夫
〒181-8515 東京都三鷹市下連雀9-7-1
TEL.0422-48-1011 FAX.0422-45-2311
窓口担当者 計測社 執行役員社長 藤森一雄
- 賛助会員
メーカー 日立ツール(株) 取締役社長 竹内 丹
〒135-8365 東京都江東区東陽4-1-13 東陽セントラルビル4階
TEL.03-3615-5471 FAX.03-3615-5498
窓口担当者 理事開発営業部長 武本泰夫

会員・業界消息

理事交代 東部地区 米沢工機(株) 専務取締役 青木俊一

行事予定

西部新春時局講演会	1月20日(木)	大阪産業創造館
東部研修会	2月16日(水)	仏教伝道センター
調査広報委員会	2月21日(月)	機械工具会館
教育委員会	2月24日(木)	機械工具会館
政策委員会	3月9日(水)	大阪産業創造館
定例理事会	3月9日(水)	大阪産業創造館
中部地区研修会	3月18日(金)	名古屋ABC
展示会		
微細精密加工技術展 2005	5月25日(水)~28日(土)	インテックス大阪
2005自動車部品生産システム展	6月15日(水)~18日(土)	東京ビッグサイト
EMO Hannover 2005	9月14日(水)~21日(水)	ドイツハノーバー
第10回メカトロテックジャパン	10月19日(水)~22日(土)	ポートメッセ名古屋

編集後記

新年おめでとうございます。会員のみなさまも希望に満ちた新年をお迎えになられたことと思います。本年がみなさまにとって素晴らしい年になりますよう祈念申し上げます。

石川会長は念頭の挨拶で、本年は好調な市場動向の中で日工販の魅力を高め、メーカーやユーザーの発展に有用な情報を提供し、もの造りに積極的に参加していこうと述べられています。どちらかといえば情報過多となる現在の状況ですからこそ、新鮮で尚且つ時機を得た価値ある情報を選別し、真に望まれるところに提供することに意義があるといえます。

12月15日に日工会が発表した11月の受注総額は今回の上昇過程での最高額である1,133億円に達し、同月までの累計は1兆1,195億円、前年比44.7%増となりました。同会の新年1~3月の受注見通しによれば会員の73%が現状を保つと見ており2005年も順調なスタートが切れそうです。

恒例の2004年日工販5大ニュースを取り上げました。

2月 協会HP会員ページリニューアルされ「掲示板」に加え「日工販ニュース」掲載開始される。

6月 協会第35回通常総会開催。日本経済新聞社 後藤編集委員兼論説委員による「日本のモノ造りの行方」講演実施。

10月 JIMTOF2004開催。活況を呈す。

11月 会員増強プロジェクトスタートし新会員続々入会。

12月 2004年工作機械受注額1990年以来の最高額1兆2千億円超へ。

「日工販ニュース」 Vol.17 - No.1

平成17年1月15日発行

発行 日本工作機械販売協会
〒108-0014 東京都港区芝 5-14-15 機械工具会館3階
電話 03-3454-7951 FAX 03-3452-7879
発行責任者 専務理事 荘司 博章
編集 日工販調査広報委員会
委員長 田尻 哲男

日本工作機械販売協会 会員会社一覧 (50音順)

平成17年1月1日現在

正会員(全68社)

[東部地区(34社)]

(株) 旭 商 工 社
 伊藤忠メカトロニクス(株)
 今井機械工業(株)
 (株) エムエムケー
 大石機械(株)
 (株) カナデン
 (株) 兼松 K G K
 (株) 京 二
 (株) 共 和 工 機
 群馬工機(株)
 (株) 三 機 商 会
 三洋マシン(株)
 サンワ産業(株)
 シマモト技研(株)
 住友商事マシネックス(株)
 (株) セイロジャパン
 誠和エンジニアリング(株)
 太平興業(株)
 (株) 高橋機械
 帝通エンジニアリング(株)
 (株) テ ヅ カ
 東京金子機械(株)
 (株) トーメントソリューションズ
 常盤産業(株)
 トッキ・インダストリーズ(株)
 独協機械(株)
 (株) ト ミ タ
 (株) N a I T O
 日鋼商事(株)
 藤田総合機器(株)
 松茂工販(株)
 三菱商事テクノス(株)
 ユアサ商事(株)
 米沢工機(株)

[中部地区(20社)]

石原商事(株)
 (株) 井 高
 カト一機械(株)
 釜屋(株)
 岐阜機械商事(株)
 甲信商事(株)
 三栄商事(株)
 三機商事(株)
 サンコー商事(株)

三立興産(株)
 下野機械(株)
 (株) 大 成
 (株) 大 誠
 (株) 東 陽
 豊田通商(株)
 (株) 日本精機商会
 浜松貿易(株)
 (株) 不 二
 山下機械(株)
 ワシノ商事(株)

[西部地区(14社)]

赤澤機械(株)
 伊吹産業(株)
 植田機械(株)
 岡三機械(株)
 (株) お じ ま
 京華産業(株)
 五誠機械産業(株)
 桜井機械(株)
 (株) ジ ー ネット
 (株) 立花エレテック
 日本産商(株)
 マルカキカイ(株)
 宮脇機械プラント(株)
 (株) 山 善

賛助会員(全63社)

[製造業(45社)]

(株) エ グ ロ
 エヌティーツール(株)
 エンシュウ(株)
 オークマ(株)
 大隈豊和機械(株)
 大阪機工(株)
 (株) 岡本工作機械製作所
 (株) 神崎高級工機製作所
 キタムラ機械(株)
 キャムタス(株)
 (株) グラフィックプロダクツ
 黒田精工(株)
 (株) シギヤ精機製作所
 新日本工機(株)
 (株) ソディック
 大昭和精機(株)
 高松機械工業(株)

(株) ツ ガ ミ
 (株) テクノワシノ
 東芝機械マシナリー(株)
 東洋精機工業(株)
 豊田工機(株)
 (株) ナガセインテグレックス
 中村留精密工業(株)
 (株) 日研工作所
 (株) 日平トヤマ
 野村精機(株)
 浜井産業(株)
 ファナック(株)
 富士機械製造(株)
 ブラザー販売(株)
 豊和工業(株)
 牧野フライス精機(株)
 (株) 牧野フライス製作所
 (株) 松浦機械製作所
 三井精機工業(株)
 (株) ミ ッ ト ヨ
 三菱重工業(株)
 三菱電機(株)
 三菱マテリアルツールズ(株)
 (株) ミ ヤ ノ
 メルダシステムエンジニアリング(株)
 (株) 森精機製作所
 安田工業(株)
 ヤマザキマザック(株)

[リース業(18社)]

共友リース(株)
 近畿総合リース(株)
 興銀リース(株)
 首都圏リース(株)
 昭和リース(株)
 GEキャピタルリーシング(株)
 住商リース(株)
 ダイヤモンドリース(株)
 東京リース(株)
 東銀リース(株)
 東芝ファイナンス(株)
 日本機械リース販売(株)
 日立キャピタル(株)
 (株) 芙蓉リース販売
 三井住友銀リース(株)
 三井リース事業(株)
 三菱電機クレジット(株)
 UFJセントラルリース(株)